

ヨーガの起源 (1)

仏教, ジャイナ教, ウパニシャッド

まずは何の起源の話なのか

前回の復習, プラス

- 基本, 「ヨーガ」という名詞は「修行」と意味を獲得する
- 明かに哲学書と言える Pātañjalayogaśāstra で説かれるヨーガを一旦の決定的なヨーガと位置付ける
- ただ以下の点に留意
 - そこまでもその後もいろいろなヨーガ
 - ハタヨーガを経てある時点でヨーガはインドを出る
 - そこでもまたいろいろなヨーガ

大まかな話の流れ

ウパニシャッドからパータンジャラヨーガまで

- 紀元前5, 6世紀から紀元後5, 6世紀？
- 大まかに二つに区分
 - ヒラニヤガルバ (Hiraṇyagarbha) のヨーガまで
 - ヒラニヤガルバのヨーガからパータンジャラまで
- 今回はヒラニヤガルバの直前まで

さらに... 伝統的な定義

解脱の手段・解脱に至る知識を得
る手段

となるとウパニシャッドにすでにヨーガが説かれていると言うことに 8世紀の哲学者が何をヨーガと考えたか、どこにヨーガが説かれていると考えたか

- シャンカラ（8世紀）のバラフマストラバーシュヤ 2.1.3 に対する注釈に、彼がヨーガを説いていると考えたウパニシャッドが現れる
- ブリハッドアーラニヤカ・ウパニシャッド
 - おそらくはもっとも重要なウパニシャッド
 - このウパニシャッド自体はヨーガという語を用いない
 - シャンカラがこのテキストでヨーガを教えていると考える箇所はアートマンの知り方を教える箇所
 - śrotavyo mantavyo nididhyāsitavyaḥ, BĀU 2.4.5/4.4.21
 - ちなみに、この説はいわゆる聞思修を教える箇所。おそらく仏教との時代背景を考える上で重要になる
 - 後のヨーガとの関連では動詞 dhyai- が現れることに注目。dhyāna（禅定）の概念が現れる
 - シャンカラはこの動詞で表される行為を samādhi と同一視。つまり、8世紀の彼にとっては yoga, samādhi, dhyāna は重なるもの
- あくまでも8世紀のシャンカラの視点ではヨーガは紀元前5世紀もしくは6世紀に説かれていたということに

追加説明: ウパニシヤツド, ブラフ
マスタートラ, その注釈, シヤンカラ

シャンカラの考えるヨーガを教えるウパニシャッド

その2：カタ・ウパニシャッド

- シャンカラはこのテキストの *tāṃ yogam iti manyante sthiram indriyadhāraṇām* ([知者たちは]この、安定した、感覚器官の抑制をヨーガと考える) という文章がヨーガを教えているとする
- 確かにヨーガという語が現れる
- さらに、後の体系化したヨーガとの関連では、*dhāraṇā* という概念が言及されていることに注目
- 同書は他にも *yoga* という語を用いる
 - それによると、このテキストで教えられる全てがヨーガのやり方を教えているということに
 - そして、そのゴールはブラフマンの知識
- 同書の成立年代は定めにくい

シャンカラがヨーガを教えていると考えるウパニシャッド

その3：シュヴェーターシュヴァタラ・ウパニシャッド

- おそらく、ヨーガの歴史、シヴァ教の歴史を考える上でもっとも興味深いウパニシャッド
- その第2章はヨーガの教え
 - しかしその前半は他のヴェーダ文献からの流用
 - 2.8以降は āsana, pratyāhāra, prāṇāyāma, dhāraṇā を教える
 - 前半では動詞 yuj-, 後半では名詞 yoga（未だ努力の意味で）
 - おそらくは初めて明快に yoga と「繋ぐ」という意味を結びつけたテキスト

ついでに...

動詞語根 **yuj-** dhātupāṭha に2度現れる

- パーニニ文法（紀元前4世紀？）
- スートラとそのサポートとなるテキスト
- その一つが動詞語根のリスト dhātupāṭha
- 語根 **yuj-** は2度現れる
 - **yujir yogē**
 - **yujā samādhau**

もう一つ、ヨーガの起源を語る上で外せないウパニシャッド

マイトラーヤニーヤ・ウパニシャッド Maitrāyaṇīya Upaniṣad

- 有名な6支ヨーガを教えるパッセージ
- prāṇāyāmaḥ pratyāhāro dhyānaṃ dhāraṇā tarkaḥ samādhiḥ ṣaḍaṅga ity ucyate yogaḥ
- 「ヨーガは六つの支分からなると言われる。つまり、 prāṇāyāma, pratyāhāra, dhyāna, dhāraṇā, tarka, そして samādhi」

蛇足ながら

タパス tapas (苦行) について

- ヴェーダ・バラモン教的な概念
- 他の徳のある行為とともにしばしば言及される
- しかし、本来ヨーガとの関係はあまりない模様

古ウパニシヤツドと同じ頃

仏教とジャイナ教の興り

仏教とジャイナ教

どちらも開祖が修行ののち悟りを開いたということに

- さて、彼らが行った修行とヨーガとの関連は？
- まず、文献の側から
 - 注意点：ブッダの言葉そのまま、あるいはブッダと同時期にその活動を記録したものは残っていない
 - 我々がアクセスできるのは、数百年後に成立したテキスト
 - 仏典結集（覚えてますか？）

『ラリタヴィスタラ』

サンスクリットで残るブツダの伝記

- 修行に関する記述あり
- 基本的には dhyāna が使われる
- ただし, padmāsana, bhadrāsana, siṃhāsana, paryāṅka という語が座り方の文脈で登場する

視覚的な資料？

ガンダーラ美術







ガンダーラ美術

ペシャワールあたりを中心

- クシャーン期に隆盛
- ギリシャ人 artisan の存在
- 紀元後2世紀頃が最初の仏像
- 仏像の登場と同時に座法は存在

仏教の興りとヨーガ

ヨーガという語で語られていたかは置いておくとしても

- ヨーガと強い関連のある dhyāna という語がブッダの修行の文脈で使われていた
- 坐法 āsana はすでに成立？

まとめ

紀元前5世紀頃から

後に体系化されるヨーガのパーツは出始めていた？

- 時代の重なるブッダと古ウパニシャッドではこれらが教える究極の真実を知る手段の文脈で dhyāna あるいはこの名詞のもととなる動詞 dhyai- が使われていた
- 紀元後2世紀あたりまでには āsana, prāṇāyāma, dhāraṇā, pratyāhāra, dhyāna などの概念とテクニックは成立？

次回予告

ヒラニヤガルバのヨーガ, サーンキヤとヨーガ

Pātañjalayogaśāstra が成立する直前までのヨーガ

- 再訪：仏教とヨーガ
- サーンキヤとヨーガ
- 最初のヨーガの体系化？ヒラニヤガルバのヨーガ
- 追加：ヴェーダーンタ, 不二一元論 (Advaita), ギーター, Adhyātma 哲学, 後期ウパニシャッド
 - そしてそれらとヨーガ